

1. 科目名（単位 数）	児童・家庭福祉論（2単位）	3. 科目番号	SJMP1101 SSMP2102 SCMP2302
2. 授業担当教員	祐東 孝好		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、 学外調査	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。 授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。		
8. 学習目標	・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。		
9. アサイメント （宿題）及びレポ ート課題	1. 授業の最後に講義のまとめをして提出します。 2. レポート課題を課します。内容については講義の中でお知らせします。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉 第2版』 中央法規出版、2025年。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加（ディスカッション・発表） 総合点の30％ 2 日常の学習状況（小テスト・小レポート・学外調査） 総合点の30％ 3 課題レポート 総合点の40％		
12. 受講生への メッセージ	授業を通して基本的な事柄について学びます。その学んだことを現場に出た時に生かせるよう、乳幼児から高齢者までの社会福祉について身につけましょう。 授業への出席はもとより、授業への参加、ディスカッションやレポート作成等積極的に取り組んでください。 1. 遅刻、欠席のないようにする。やむを得ず欠席する(した)場合は速やかに書面で届け出る。 2. レポートの提出期限を厳守する。提出期限後の提出は減点します。 3. 私語や居眠り、学習のテーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業の妨げとなる行為は、平常点より減点します。		
13. オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・シラバスを確認する。 ・第1章「子ども家庭福祉とは何か」 第1節「子どもの権利」 第2節「子どもの姓名と発達」 第3節「子どもと家庭・地域」	事前学習	・シラバスを確認する。 ・教科書 pp. 1～18 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第2回	・第1章「子ども家庭福祉とは何か」 第4節「子ども家庭福祉とは」 ・第2章「子ども家庭福祉の歴史」 第1節「慈善・恩恵から権利保障へ」 第2節「子どもの権利擁護の変遷」	事前学習	・教科書 pp. 19～32 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第3回	・第2章「子ども家庭福祉の歴史」 第3節「子ども家庭福祉と現代社会」 ・第3章「子ども家庭を取り巻く現代社会」 グループ分け・発表準備	事前学習	・教科書 pp. 33～46 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第4回	・第3章「子ども家庭を取り巻く現代社会」 グループ発表	事前学習	・第3章「子ども家庭を取り巻く現代社会」 グループ発表の準備をする。

		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第5回	・第4章「子ども家庭福祉の支援の基盤」 第1節「子ども家庭福祉の法体系」 第2節「子ども家庭福祉の実施体制」 第3節「子ども家庭福祉にかかわる関係機関」	事前学習	・教科書 pp. 47～70 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第6回	・第4章「子ども家庭福祉の支援の基盤」 第4節「子ども家庭福祉の財源と費用負担」 第5節「子ども家庭福祉の人材と専門職」 第6節「子ども家庭福祉の計画的推進」	事前学習	・教科書 pp. 71～86 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第7回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第1節「子ども・子育て支援」 第2節「母子保健」	事前学習	・教科書 pp. 87～106 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第8回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第3節「保育」 第4節「要保護児童と在宅支援」	事前学習	・教科書 pp. 107～121 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第9回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第5節「児童虐待にかかわる支援」 第6節「社会的養護」 グループ発表準備	事前学習	・教科書 pp. 122～137 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第10回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第6節「社会的養護」 グループ発表	事前学習	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第6節「社会的養護」 グループ発表の準備をする。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第11回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第7節「ひとり親家庭への支援」 第8節「ドメスティック・バイオレンスと女性支援」	事前学習	・教科書 pp. 138～153 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第12回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第9節「スクールソーシャルワーク」 第10節「少年非行」 第11節「若者支援」	事前学習	・教科書 pp. 154～175 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第13回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第12節「障害のある子どもへの支援」 第13節「ソーシャルアクション」	事前学習	・教科書 pp. 176～192 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第14回	・第6章「子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践」 序説「子どもの家庭福祉におけるソーシャルワーク」 第1節「子ども家庭福祉の支援の端緒と調査」	事前学習	・教科書 pp. 193～201 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第15回	・第6章「子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践」 第2節「子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク」 第3節「子ども家庭福祉における支援の展開過程と連携」	事前学習	・教科書 pp. 202～209 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
期験に代わるレポート有り			